

# 五代伊勢宮遺跡(2)

市道00-042号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009. 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

# 五代伊勢宮遺跡(2)

市道00—042号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2009. 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団





五代伊勢宮遺跡（2）全景



五代伊勢宮遺跡（2）全景（南から）



五代伊勢宮遺跡（2）全景（北から）

## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。

市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800余りの古墳が存在していたように、上毛野の国の中心地として栄え、続く律令時代になってからは、総社・元総社地区に山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

五代伊勢宮遺跡は、赤城山南麓の芳賀地区に位置します。今までの調査では、県内でも注目を集める縄文時代中期の大集落跡の存在が判明しております。縄文時代の中でも、とりわけ中期は土器を豪華に飾る時代です。伊勢宮遺跡から出土した土器には長野や新潟、茨城の影響を受けた特色あるものが存在します。今回の調査では残念ながら縄文時代の遺構は発見されませんでした。遺跡の拡がりを確認することができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、期間の制約された中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年2月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団 長 依 田 三次郎



## 例 言

- 1 本報告書は、道路改良工事に伴って実施した五代伊勢宮遺跡(2)の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市五代町1075-1番地
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長 依田三次郎)の指導のもとに委託者 前橋市建設部道路建設課(管理者 高木政夫)の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永眞弘)が実施した。  
調査担当者 山下歳信・岩丸展久(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)  
権田友寿(スナガ環境測設株式会社)
- 4 発掘調査期間 平成20年9月18日～平成20年12月12日  
整理期間 平成20年12月15日～平成21年2月27日
- 5 調査面積 1,350㎡
- 6 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 7 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては山下歳信、その他は権田が担当し、遺構・遺物の実測・トレース…権田・星野陽子、遺物整理…中川綱子、遺物洗浄・注記・接合…須永豊・中川、写真整理・内業事務…須永が担当した。
- 8 発掘調査に参加した方々(敬称略)  
品川 浪江 北爪 一郎 長 澤 俊 男 菊 川 勝 武 井 知 司 小 林 和 雄  
黒 田 雄 司 細 井 美 佐 子 星 野 陽 子

## 凡 例

- 1 遺跡の略称は、五代伊勢宮遺跡(2)(20C46)である。
- 2 遺構名の略称は、次のとおりである。  
奈良・平安時代の住居跡…H 掘立建物跡…B 溝跡…W 土坑…D 縄文土坑…(JD)  
ピット(柱穴)…P 実測図中の記号 S…石 P…土器
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。  
遺跡平面図…1/200 住居跡・掘立建物跡…1/60 竈 断面図…1/30  
土坑…1/60 土器…1/3 石器・石製品…1/3
- 4 本文中の( )は推定値、[ ]は現存値を表す。
- 5 挿図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋・大胡・渋川・鼻毛石」を使用した。
- 6 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点と照合済。  
基準点X 0, Y 0グリッド地点を日本測地系 座標値 X=46,200.000m、Y=-64,700.000m  
グリッド 4m間隔。水準点 B.M.…134.50m、136.00m、137.00m、139.00m。
- 7 土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』(農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所 色票監修)による。
- 8 土層注記中の縮まり、粘は粘性とし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。
- 9 須臾器断面…を使用した。
- 10 付図 五代南部工業団地遺跡群全体図については『五代伊勢宮遺跡(1)』と『五代伊勢宮遺跡(2)』を『五代本福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅲ遺跡 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005』の付図3に加筆した。

# 目 次

はじめに .....	i
I 調査に至る経緯 .....	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	
1 遺跡の立地 .....	1
2 歴史的環境 .....	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針 .....	5
2 調査経過 .....	5
IV 層 序 .....	5
V 検出された遺構と遺物	
1 縄文時代の遺構と遺物	
(1) 土 坑 .....	6
2 古墳時代以降の遺構と遺物	
(1) 住 居 跡 .....	7
(2) 掘立柱建物跡 .....	7
(3) ビット (柱穴) .....	7
(4) 土 坑 .....	7
(5) 溝 跡 .....	8
3 ま と め .....	9

## 挿 図

第1図	遺跡位置図	vi	第9図	D調査区全体図	16
第2図	周辺遺跡図	3	第10図	H-1号住居跡	17
第3図	グリッド設定図	4	第11図	P1~P25号ピット	18
第4図	基本土層断面図	6	第12図	P26~P50号ピット	19
第5図	調査区位置図	12	第13図	D1~D11(JD)号土坑	20
第6図	A調査区全体図	13	第14図	B-1号掘立柱建物跡、A・D調査区 道路跡断面図	21
第7図	B調査区全体図	14	第15図	遺物実測図	22
第8図	C調査区全体図	15			

## 表

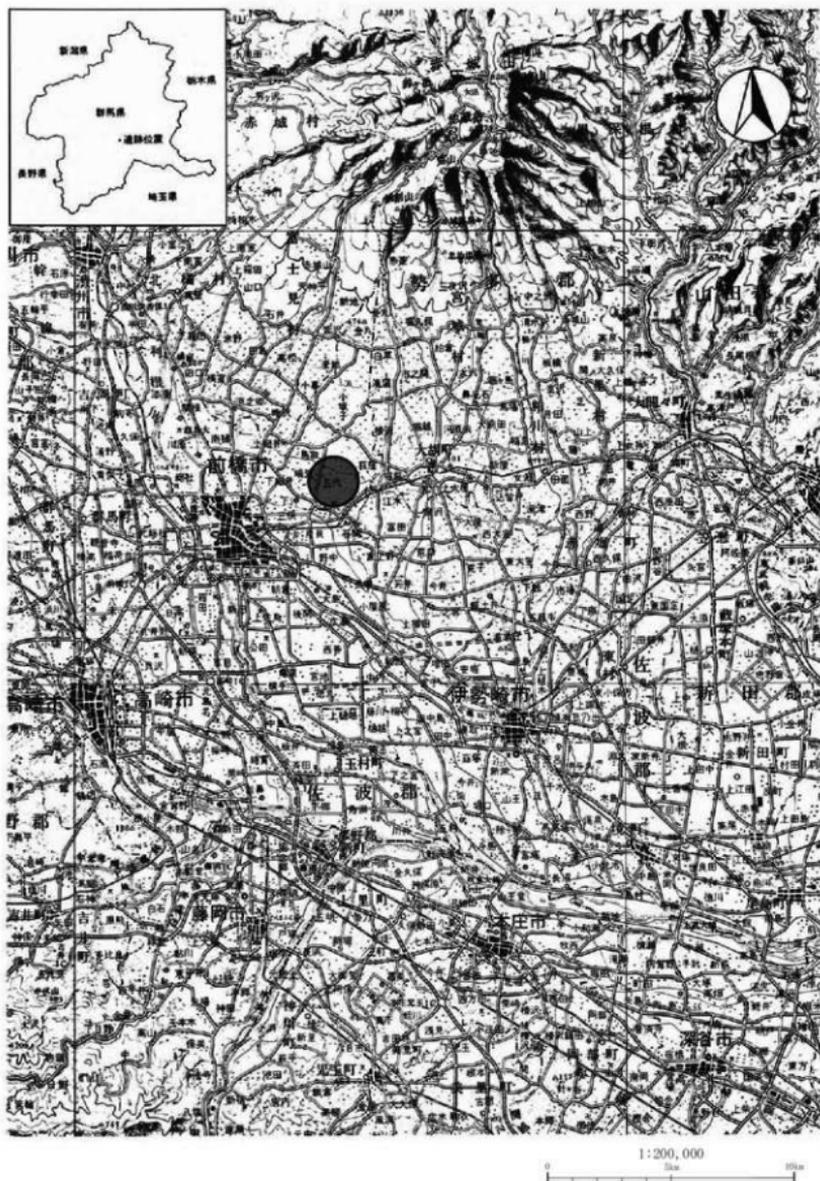
第1表	周辺遺跡概要一覧表	2	第4表	土坑(古墳時代以降)計測表	9
第2表	土坑(縄文時代)計測表	8	第5表	遺物観察表(縄文時代)	11
第3表	ピット計測表	8	第6表	遺物観察表(古墳時代以降)	11

## 写真図版

口 絵	五代伊勢宮遺跡(2)全景(上から) 五代伊勢宮遺跡(2)全景(南から) 五代伊勢宮遺跡(2)全景(北から)		
図版1	A・B調査区全景(上から) C・D調査区全景(上から) A調査区全景(南から)(北から) B調査区全景(南から) B調査区北端(南から) C調査区全景(南から)(北から)	図版3	D10・11(JD)号土坑全景 作業風景 プレ調査NO.1・3・4土層断面 道路跡土層断面(A・C調査区)
図版2	D調査区南側全景(南から) D調査区北側全景(南から)(北から) H-1号住居跡全景(南から) H-1号住居跡掘り方全景(南から) B-1号掘立柱建物跡全景(南から) D6(JD)号土坑全景(東から) D8・9(JD)号土坑全景(西から)	図版4	出土遺物

## 付 図

五代南部工業団地遺跡群全体図(縮尺1,000分の1)



第1図 遺跡位置図

## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、市道00-042号線（五代南部工業団地通線）道路改良工事実施に伴い行われた。本遺跡地は、平成12年度の試掘調査結果により五代南部工業団地遺跡群として確認されている。

平成20年5月2日付けで、前橋市長 高木 政夫（建設部道路建設課工務第一係）より、前橋市五代町1075-1番地に予定されている道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 依田 三次郎へ調査実施の協議を行った。

同年6月11日付けで調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、同年8月27日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託業務を締結した。調査団は民間調査機関である、スナガ環境測設株式会社 代表取締役 須永 眞弘と同年9月18日付けで業務委託契約を締結し、同日より現地での発掘調査を開始し、同年12月12日に現地調査を終了した。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1 遺跡の立地

遺跡の所在する五代町は、前橋市の中心市街地から北東へ約5kmに位置する。遺跡の北方には大正用水が西から東へ流れ、芳賀東部工業団地西に芳賀西部工業団地がある。前橋市では、「豊かで素晴らしい社会を築く町づくり」を目的に、福祉、教育、文化、環境等の整備拡充を進めている。その施策の一つとして、前橋工業団地造成組合による工業団地や住宅団地の造成があり、昭和35年以来多くの団地造成を行っている。その一つとして、五代南部工業団地がある。団地は、日本百名山の一つ赤城山南麓火山斜面の緩やかで自然豊かな面にある。山麓に源を発する中小の河川が付近を南流し、部分的に開析谷を形成し舌状台地と谷地部を作り、谷と谷の間の丘陵性の台地には、住宅団地や畑地が広がり、谷地部は水田が営まれている。この斜面の末端部は、本遺跡から1,500m南へ下がった主要地方道前橋赤堀線付近に当り、旧利根川の作った広瀬川低地帯に接し、この付近から関東平野が南に広がっている。

### 2 歴史的環境

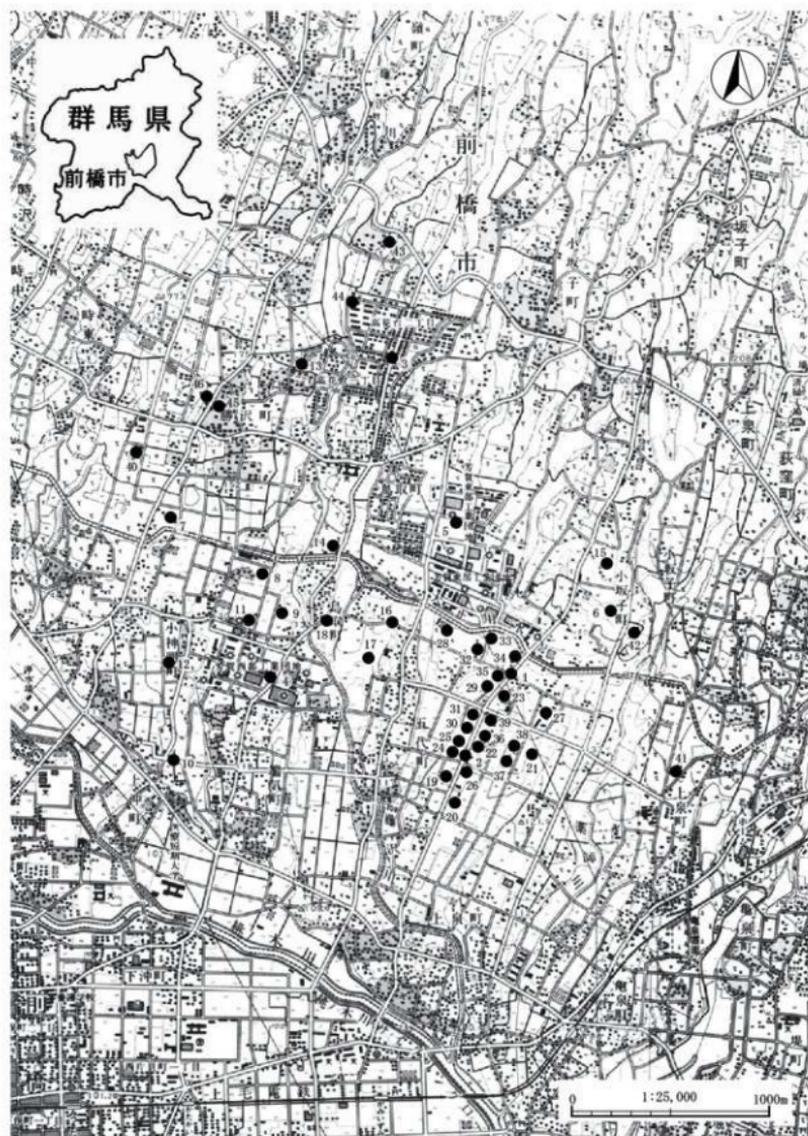
本遺跡の近隣地域では、芳賀工業団地、住宅団地造成事業に伴う遺跡調査が昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて行われ、芳賀団地遺跡群（芳賀北部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀東部団地遺跡）として多くの遺構・遺物が報告されている。芳賀北部団地遺跡では縄文時代前期から後期の竪穴住居跡や中期の敷石住居跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡や中世の勝沢城跡の一部を検出した。芳賀西部団地遺跡では、縄文時代前期の竪穴住居跡や配石遺構を検出した。また、昭和10年の上毛古墳総覧の記載漏れ古墳を32基検出し、芳賀地区には集中して100基近くの古墳が確認された。芳賀東部団地遺跡では、縄文時代前期の竪穴住居跡や中期末から後期前半の敷石住居が検出されている。その他報告されている遺跡から芳賀北曲輪遺跡では、縄文時代前期の住居跡や中

期末から後期前半の敷石住居、倉本遺跡は弥生時代の竪穴住居跡、端気遺跡群Ⅰでは方形周溝墓などが検出されている。小神明遺跡群Ⅱ、西田遺跡からは古墳時代後期の円墳や帆立貝式古墳の検出があった。檜峯遺跡では奈良・平安時代の竪穴住居跡とともに奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。鳥取福蔵寺遺跡では縄文時代の竪穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡や製鉄遺構が、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では縄文時代の竪穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡や細石刃文化石器群（旧石器）が検出されている。本遺跡を含めた五代南部工業団地遺跡群では平成12年度から16年度に渡り発掘調査し、縄文時代前期・中期の竪穴住居跡や土坑、古墳時代前期から後期の竪穴住居跡・方形周溝墓・周溝状遺構・土坑、奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット・溝跡・井戸跡等が検出され、中・近世では、地下式土坑・土坑・溝跡・井戸跡等が検出されている。

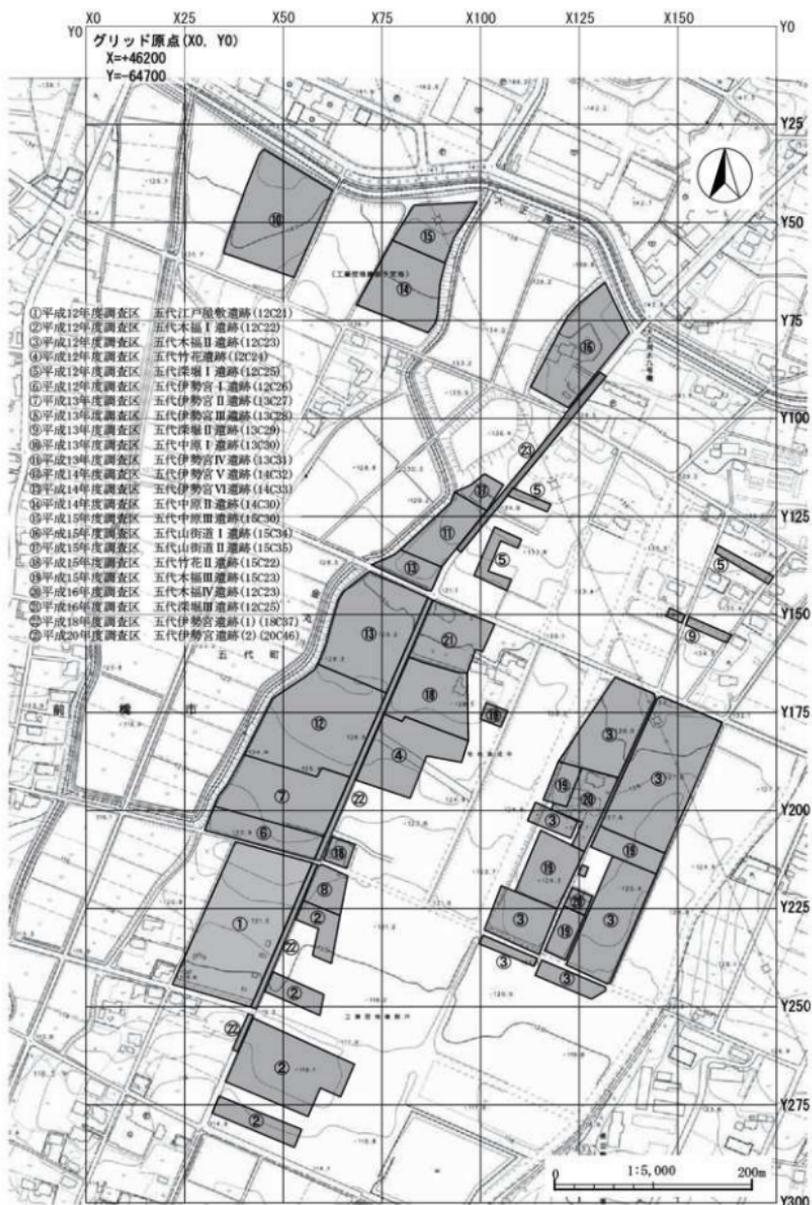
このように芳賀地区の遺跡を見ると、旧石器時代から縄文、古墳、奈良・平安、中・近世の遺構が検出され、ほとんどの時代にわたり人々の生活の痕跡が見られる地域である。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No	遺跡名	概要	No	遺跡名	概要
1	五代伊勢宮遺跡②	本遺跡	22	五代竹花遺跡	縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
2	五代伊勢宮遺跡①	縄文住居跡、奈良・平安住居跡	23	五代深堀Ⅰ遺跡	縄文住居跡、平安住居跡
3	芳賀北部団地遺跡	縄文住居跡、奈良・平安住居跡	24	五代伊勢宮Ⅰ遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡、他
4	芳賀西部団地遺跡	縄文住居跡、古墳	25	五代伊勢宮Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、奈良住居跡
5	芳賀東部団地遺跡	縄文住居跡、古墳、古墳～奈良・平安住居跡	26	五代伊勢宮Ⅲ遺跡	縄文土坑、平安住居跡、他
6	檜峯遺跡	古墳～奈良・平安住居跡	27	五代深堀Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
7	小神明遺跡群Ⅰ	縄文住居跡、奈良・平安住居跡	28	五代中原Ⅰ遺跡	縄文住居跡、古墳・平安住居跡
8	小神明遺跡群Ⅱ 九科遺跡	縄文住居跡（敷石）、古墳住居跡、奈良・平安住居跡	29	五代伊勢宮Ⅳ遺跡	縄文住居跡・土坑、平安住居跡
9	小神明遺跡群Ⅱ 西田遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、円墳、帆立貝式古墳	30	五代伊勢宮Ⅴ遺跡	縄文住居跡・土坑、古墳～奈良・平安住居跡
10	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	縄文住居跡、弥生方形周溝墓、古墳住居跡	31	五代伊勢宮Ⅵ遺跡	縄文住居跡・土坑、古墳～奈良・平安住居跡
11	倉本遺跡	弥生住居跡	32	五代中原Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、他
12	小神明遺跡群Ⅱ 大明神遺跡	古墳住居跡	33	五代中原Ⅲ遺跡	古墳住居跡、土坑、柱穴
13	芳賀北曲輪遺跡	縄文住居跡、古墳	34	五代山街道Ⅰ遺跡	縄文住居跡、古墳住居跡、平安住居跡
14	芳賀北原遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡	35	五代山街道Ⅱ遺跡	縄文土坑、他
15	五代檜峯遺跡	古墳住居跡	36	五代竹花Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
16	鳥取東原遺跡	古墳住居跡、近世埋葬施設	37	五代木堀Ⅰ遺跡	古墳～奈良・平安住居跡
17	鳥取福蔵寺遺跡	縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡	38	五代木堀Ⅱ遺跡	古墳～奈良・平安住居跡
18	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	旧石器（細石刃文化石器群）、縄文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡	39	五代深堀Ⅱ遺跡	縄文住居跡・土坑、古墳～奈良・平安住居跡
19	五代江戸屋敷遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他	40	勝沢田之口遺跡	奈良・平安住居跡
20	五代本堀Ⅰ遺跡	縄文・古墳住居跡、奈良・平安住居跡	41	新田塚古墳	円墳
21	五代本堀Ⅱ遺跡	縄文配石遺構、古墳～奈良・平安住居跡	42	檜峯古墳	円墳
			43	桂正田原塚古墳	円墳小
			44	東公田古墳	墳墓
			45	オブ塚古墳	前方後円墳
			46	オブ塚西古墳	墳丘無



第2図 周辺道跡図



第3図 グリッド設定図

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査方針

調査実施に際しては、調査区域を4ブロックに区切り南端から第A調査区、北端を第D調査区と称し、グリッドを西から東へX1、X2、X3、…、北から南へY1、Y2、Y3、…を基本として（グリッド原点X0、Y0は、日本測地系 座標値X=46,200.000、Y=-64,700.000）調査区域に4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は第A調査区から南西へ670mほどの場所にある2級基準点No.17（世界測地系新点番号41）からの基準標高に基づき測設し、各調査区の高低差が大きいため合計4ヶ所設置した。

図面作成は原則として、1/10、1/20、1/40、1/100等の縮尺を使用し、平板・遣り方による細部測量で図面を行った。また、遺構等の写真撮影は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

#### 2 調査経過

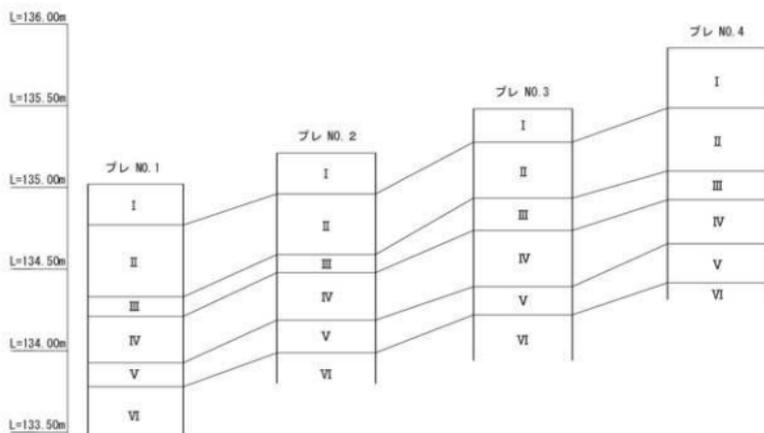
調査は、前橋市教育委員会の内部組織である調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。平成20年9月16日、調査範囲や注意事項の確認を調査団業務監督員と行い、表土掘削は北端のD調査区から開始し南端のA調査区へ、覆土除去や測量はA調査区からD調査区へ調査した。また、調査が終わりしだい路床まで埋め戻し、残土は、富士見村の公園予定地へ搬出することとなった。

9月下旬より現地調査事務所設営、機材などを搬入した。現使用道路部分調査のため、電柱・電話線移設及び道路切り替え部分の段差補修を前橋市道路管理者が行うことになり、10月上旬に移設及び段差補修が完了したことにより、通行車両の迂回を行い、調査区域と道路との境界には安全対策用バリケード、回転燈、チューブライトを設置した。

10月16日から重機により北側のD調査区から表層のアスファルトとその下層の砕石を分けて除去を開始した。表土掘削は27日から調査団業務監督員の指導を得て行うとともにジョレン掛鉤査により遺構確認を行った。11月4日から移植ゴテによる住居跡、ピット、土坑の覆土除去作業を開始し、グリッド杭、水準点測設を行い遺構図面作製作業を進め11月15日に終了し、調査団の検査後11月25日から埋め戻しを行い、12月1日作業を終了した。12月3日から残土は予定地に、産廃（アスファルト）は指定業者へ搬出し、12月10日に終了した。調査事務所及び機材の撤収は12月12日に完了した。

### IV 層 序

本遺跡の基本土層は、B調査区内に四箇所入れた旧石器調査トレンチをもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、本遺跡は勾配が大きい傾斜地に位置することが堆積状態から観察できる。基本的に第4図に示したとおりである。



第4図 基本土層断面図

- |      |                   |      |                                      |
|------|-------------------|------|--------------------------------------|
| I.   | 褐色土層 (10YR4/6)    | 中締弱粘 | 白色軽石粒 $\phi$ 1～5mmを7%含む              |
| II.  | 明黄褐色土層 (10YR6/6)  | 中締弱粘 | 白色軽石粒 $\phi$ 1～5mmを7%含む              |
| III. | 明黄褐色土層 (10YR6/6)  | 中締弱粘 | 白色軽石粒 $\phi$ 1～5mmを5%、As-BPをブロック状に含む |
| IV.  | 明黄褐色土層 (10YR5/8)  | 中締弱粘 | 白色軽石粒 $\phi$ 1mmを1%、As-BPを多く含む       |
| V.   | 黄褐色粘質土層 (10YR5/4) | 強締粘  | 青白色軽石粒 $\phi$ 1～5mmを1%含む             |
| VI.  | 褐色粘質土層 (10YR4/4)  | 強締粘  | 青白色軽石粒 $\phi$ 1～10mmを3%含む            |

\* As-BP：浅間板鼻 褐色軽石 (1.7～2.1万年前)

## V 検出された遺構と遺物

### 1 縄文時代の遺構と遺物

#### (1) 土 坑〔第7～9・13図、図版1・2・3〕

縄文時代の土坑は、6基検出した。B調査区で1基、C調査区で3基、D調査区で2基を検出した。形状は、五代伊勢宮VI遺跡で見られたような袋状を呈する土坑は検出されず、台形のものや皿状のものを検出した。また、D8・9(JD)号土坑では、重複しているものも検出した。土器を伴う土坑は3基で、完形や完形に近い土器を出した土坑は確認されていない。時期は縄文時代中期中葉から後葉であった。なお、各縄文土坑の計測値は第2表にまとめた。

## 2 古墳時代以降の遺構と遺物

### (1) 住居跡

H-1号住居跡〔第9・10図、図版2〕

**位置** X121、Y97グリッド（D調査区） **形状** 隅丸長方形を呈すと推定されるが、西側が調査区域外に入り、また水道管理設工による攪乱のため一部分の検出であった。**規模** 長軸 [3.05]m、短軸 [1.55]m、確認面から床面までの壁高17~24cm。**面積** [2.03]m<sup>2</sup> **主軸方向** N-105-E **床面** 平坦と思われる。攪乱が多く一部分硬化面が残っていた。床面標高は、137.94mであった。**柱穴・貯蔵穴**(P5) 検出されなかった。**竈** 攪乱により形状や規模は確認できなかったが、現存する焼土や炭化物などから東壁の南寄りに位置したと思われる。主軸方向は不明で、一部分を確認できた。**時期** 埋土や出土遺物から、9世紀後半と考えられる。**遺物** 土師・須恵器の坏・埴などの小片を少量。掲載した遺物は、土師器の坏1点、台付罎1点と須恵器の埴と思われるもの1点。

### (2) 掘立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡〔第6・14図、図版2〕

**位置** X100・101、Y123・124グリッド（A調査区） **形状** 東側に道路跡があるため東側の柱穴は確認できないが、東西方向1間×南北方向2間の長方形を検出した。**長軸方向** N-24-E **現存面積** (5.58)m<sup>2</sup> **柱間寸法** 東西方向で北側1間のP3・4は1.60m、南側1間のP1・5は1.50m。南北方向では西側2間のP1・2・3は1.80m+1.84mで3.64m。**柱穴** 平面形状は円形、楕円形を呈し、断面形状は円筒形、U字形である。径は長径18~30cm、短径16~24cm、深さ20~36cmを測る。**時期** 不明。**遺物** 流れ込みと思われる縄文土器の小片を出土した。

### (3) ビット（柱穴）〔第6~9・11・12図、図版1・2〕

調査区域全体で49基のビットを検出した。検出状況は、A調査区で5基、B調査区では検出数が10基、C調査区で23基、D調査区で11基検出し、A調査区でB-1号掘立柱建物跡を1棟（P1~P5）組むことができた。なお、各柱穴の計測値は第3表ビット計測表にまとめて報告する。

### (4) 土坑〔第6~9・13図、図版1・2〕

縄文時代以外の土坑は、調査区全体で5基（D1~4・7）検出した。時期を特定できるものはなかった。また、規則性などは確認できなかった。縄文時代の土器片などが出土している土坑も検出したが、埋土の質が縄文土坑とは明らかに違い、柔らかく、白色軽石粒やローム粒が多く含まれていて、後世に穴を掘った時、縄文土器などを埋めたか、埋まってしまったのであろう。なお、各土坑の計測値は第4表土坑（古墳時代以降）計測表にまとめた。

## (5) 溝 跡

## W-1号溝〔第8図、図版1〕

X116~118, Y102・103グリッド(C調査区)に位置する。規模は検出長8.45m、上幅24~34cm、下幅10~18cm、深さ2~7cmで緩やかな皿状の掘り込みで北東から南西へ走行する。溝底の標高は137.27~137.55mで、勾配は3.3%であった。道路遺構で見られるような硬化面はなく、時期不明である。遺物は出土しなかった。

第2表 土坑(縄文時代)計測表

( )は推定値、[ ]は現存値、★は縄文土器片を示す。

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模 (cm)			遺 物			備 考 (重複、その他)
		平面	断面	長径	短径	深さ	陶器器	土器片	石器	
D 5 (JD)	X164, Y118	円形	皿状	92	91	15	3	★4	—	B区
D 6 (JD)	X113, Y108	(円形)	皿状	(90)	87	25	1	★4	—	C区
D 8 (JD)	X115, Y105	楕円	台形	[108]	114	[70]	2	★2	—	D 9と重複 C区
D 9 (JD)	X115, Y105	(円形)	台形	60	[31]	20	—	—	—	D 8と重複 C区
D10(JD)	X121, Y98	楕形	台形	[67]	80	45	—	—	—	D区
D11(JD)	X127, Y90	楕円	皿状	67	52	36	—	—	—	D区

第3表 ビット計測表

[ ]は現存値、( )は推定値、★は縄文土器片、●は土器器片出土を示す。

ビット番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形状	備 考	ビット番号	遺構位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	形状	備 考
P 1	X100, Y124	25	24	34	円	B-1 ★2 A区	P26	X116, Y105	24	20	35	楕円	C区
P 2	X100, Y124	21	20	33	円	B-1 ★1 A区	P27	X116, Y104	44	38	20	楕円	C区
P 3	X100, Y123	18	16	14	円	B-1 ●1 A区	P28	X116, Y104	58	42	28	楕円	C区
P 4	X101, Y123	20	19	20	円	B-1 ★1 A区	P29	X116, Y104	72	43	21	楕円	C区
P 5	X100, Y124	30	23	36	楕円	B-1 A区	P30	—	—	—	—	—	欠番
P 6	X107, Y115	45	37	15	楕円	B区	P31	X117, Y104	36	35	54	円	C区
P 7	X110, Y113	37	(37)	24	(円)	B区	P32	X117, Y104	34	26	31	楕円	C区
P 8	X111, Y112	47	37	37	楕円	B区	P33	X117, Y103	22	20	32	円	C区
P 9	X111, Y111	40	37	48	円	B区	P34	X117, Y103	20	19	25	円	C区
P10	X111, Y112	30	28	14	円	B区	P35	X117, Y103	39	37	30	円	C区
P11	X111, Y111	40	25	29	楕円	B区	P36	X118, Y103	21	20	20	円	C区
P12	X110, Y111	45	38	11	楕円	B区	P37	X117, Y103	19	17	29	円	C区
P13	X111, Y110	18	17	19	円	B区	P38	X117, Y102	23	22	25	円	C区
P14	X111, Y110	24	23	32	円	B区	P39	X122, Y98	32	[17]	30	(円)	D区
P15	X111, Y111	19	19	21	円	B区	P40	X122, Y97	29	23	26	楕円	D区
P16	X113, Y109	39	29	35	楕円	C区	P41	X117, Y104	29	27	19	円	C区
P17	X115, Y107	46	43	32	円	C区	P42	X125, Y93	33	26	29	楕円	D区
P18	X115, Y106	23	17	27	楕円	C区	P43	X126, Y93	37	27	26	楕円	D区
P19	X115, Y106	22	21	35	円	C区	P44	X126, Y93	41	41	27	円	★1 D区
P20	X115, Y106	22	21	69	円	C区	P45	X126, Y93	46	34	52	楕円	D区
P21	X115, Y106	27	17	41	楕円	C区	P46	X126, Y92	36	29	61	楕円	D区
P22	X115, Y105	[20]	18	34	[楕円]	C区	P47	X126, Y92	40	39	47	円	D区
P23	X115, Y106	40	34	23	楕円	C区	P48	X126, Y92	23	23	23	円	D区
P24	X116, Y105	24	24	49	円	C区	P49	X126, Y91	23	[13]	25	(円)	D区
P25	X116, Y105	31	30	38	円	C区	P50	X126, Y92	37	37	28	円	D区

第4表 土坑（古墳時代以降）計測表

[ ] 現存値、★は縄文土器片を示す。

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模 (cm)			遺 物			備 考 (重複、その他)
		平面	断面	長径	短径	深さ	掲載器	土器片	石器	
D 1	X101, Y122	円	台形	80	79	13	—	—	—	A区
D 2	X103, Y120	円	皿状	62	61	23	—	—	—	A区
D 3	X104, Y119	楕円	台形	63	54	16	—	★1	—	B区
D 4	X104, Y119	円	台形	72	70	14	—	★1	—	B区
D 7	X113, Y107	不明	[皿状]	[55]	[27]	[30]	—	—	—	C区

### 3 ま と め

本遺跡は、五代伊勢宮遺跡(1)に引き続き、五代南部工業団地遺跡群のほぼ中央を走行する在来道路部分の調査である。今回の調査では縄文時代の住居跡は検出されず、縄文時代の土坑がB区1基、C区3基、D区2基、合計6基検出した。出土した遺物は縄文時代前期から中期のものであった。近隣の遺跡の中で、五代伊勢宮VI遺跡などで検出したような袋状の土坑や、赤く焼けた石や完形に近い土器など出土した土坑は検出されなかった。また、五代伊勢宮VI遺跡と五代深堀III遺跡において、標高127.8～131.5mの範囲は縄文時代中期に形成された環状集落で、集落の内側には土坑群が環状を呈しており、五代伊勢宮IV遺跡を含めた標高133.0mより標高の低い南側では、縄文時代の土坑群を形成している。本遺跡A区の南側は、五代伊勢宮IV遺跡の東側に隣接し、土坑群の一端が見られるかと思われたが、旧道路跡の建設工事により検出できなかった。B区では縄文時代中期中葉の土器片が出土したD5(JD)号土坑を1基検出した。西側に隣接する五代山街道II遺跡でも数基の土坑が散在し土坑群から、はずれていることが確認できる。C区では3基検出され、D6(JD)号土坑から中期後葉の土器片が出土している。そのほかD8(JD)号土坑とD9(JD)号土坑が重複して検出し、土層断面から掘り込みの深いD8(JD)号土坑の方が古く、中期後葉の土器片が出土している。D区では縄文時代の土坑を2基検出したが、遺物の出土はなかった。D区西側に隣接する五代山街道I遺跡では縄文時代前期、中期の住居跡及び土坑が検出している。

本遺跡では、平安時代の竪穴住居跡をD区で1軒(H-1)検出した。D区西側に隣接する五代山街道I遺跡では古墳時代から平安時代の住居跡が検出しており、H-3号住居跡(9世紀)から南東に約10mほどの距離に本遺跡のH-1号住居跡(9世紀後半)を検出した。両住居跡とも標高が約138.20mで検出し、立て替えられたのか、何らかの関係があると考えられる。ピットは調査区域全体で49基を検出した。検出状況は、A区で5基、B区で10基、C区で23基、D区で11基検出し、近隣の遺跡と同様にそれぞれの調査区で散在せずピット群を呈していたが、掘立柱建物跡を確認できたのは、A区の1棟(B-1)のみであった。

以上のように、五代南部工業団地遺跡群の中央台地での遺構検出状況の傾向が本遺跡にも現れている。

ブレ調査をB調査区内X109, Y113グリッド、X108, Y114グリッド、X107, Y116グリッド、X105, Y118グリッドの4ヶ所行った。およそ2万2千年前の地層である暗色帯を掘り込むまでに行き、約1.50mほどの深さまで掘った。調査結果として、石器はおろか小石すら出土しなかったが、土層断面からB調査区の部分は3%前後の傾斜地であることが確認できた。

A区の南側とD区の北側に旧道路跡が確認されているが、昭和43年作製の縮尺2500分の1の地図では、今回の

遺跡調査範囲とした道路の形態が描かれている。調査で確認された道路跡は、明治29年元陸軍の迅速測図に騎小径とある道路で、昭和30年の中頃まで使用していたと考えられる。近隣に在住する古老の話によると、「この道路は山を掘って、東側に素掘りの側溝を施したもので、傾斜がきつく路面が滑りやすいので砂利を敷いた。雨が降ると川のようになり、現在と比較すると良い道路とはいえなかった。現在の道路にする工事の時、勾配をなるべく緩やかで、直線道路にするためブルドーザーによりロームをかなり深く削ったので多くの土器が出土し、当時の芳賀小学校の児童と、先生が拾い集め学校に展示したことがあった。」と言う。今回の五代伊勢宮遺跡(2)の調査において、遺構があまり確認されず、確認面の鋤簾精査においても遺物の出土が少量であったのは、おそらく集落から、はずれていたという理由だけではなく、前述の古老の話のような理由があったとも考えられる。

#### 参考文献

- |              |      |                  |
|--------------|------|------------------|
| 芳賀団地遺跡群第1巻   | 1984 | 前橋市教育委員会         |
| 芳賀団地遺跡群第2巻   | 1988 | 前橋市教育委員会         |
| 芳賀団地遺跡群第3巻   | 1990 | 前橋市教育委員会         |
| 芳賀団地遺跡群第5巻   | 1994 | 前橋市教育委員会         |
| 五代 深堀 I 遺跡   | 2000 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 伊勢宮 IV 遺跡 | 2001 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 伊勢宮 VI 遺跡 | 2002 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 竹花 II 遺跡  | 2003 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 山街道 I 遺跡  | 2003 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 山街道 II 遺跡 | 2003 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 深堀 III 遺跡 | 2005 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 五代 伊勢宮 遺跡(1) | 2007 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団    |
| 図説・前橋の歴史     | 1986 | 近藤義雄             |
| 芳賀村誌・芳賀の町誌   | 1993 | 芳賀村誌改訂並びに町誌編纂委員会 |

第5表 遺物観察表（縄文時代）

法量は①口径②底径③胴部最大④器高を表し、単位はcmである。また、( )は推定値、[ ]は現存値を表す。

番号	出土位置	器種	法 量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備 考
1	D 5	深鉢	③(4.4)	①黒・中粒②良好 ③明赤褐色④胴部の一部	外面に円形の裝飾。内面三角形に区画された、隆帯に刻みを施す。	勝坂
2	D 5	深鉢	③(4.8)	①細粒②良好 ③鈍い褐色④胴部の一部	平截竹管による平行沈線により三角形の区画をなす。区画の内外には竹管目による連続する凹線がみられる。	諸磯
3	D 5	深鉢	③(6.3)	①黒・粗粒②良好 ③赤褐色④胴部の一部	曲隆線とそれに沿って重層する沈線文。	焼町
4	D 6	深鉢	①(22.0) ④(5.6)	①細粒②良好 ③淡黄褐色④口~胴	口縁部に沈線を施し、その下方に縄文(LR)を施文。さらに下方を沈線で楕円区画を施す。区画内はすり消し。	加曾利 E 4
5	D 8	深鉢	③(4.0)	①黒・粗粒②良好 ③褐色④胴部の一部	沈線で楕円区画し、区画内に縄文(LR)施文。	加曾利 E 4
6	D 8	深鉢	③(5.7)	①細粒②良好 ③褐色④胴部の一部	条線文施文。	加曾利 E 4
7	P 1	深鉢	③(3.7)	①黒・中粒②良好 ③明赤褐色④胴部の一部	曲隆線及び、LR 縄文を施文。土製円盤。	加曾利 E 3
8	P 44	深鉢	③(5.1)	①黒・粗粒②不良 ③明赤褐色④胴部の一部	横線土師。無筋縄文(L)を施文。	黒浜
9	X 136, Y 92 ドリッド	深鉢	③(5.6)	①黒・中粒②良好 ③褐色④胴部の一部	単筋 RL 縄文を施文。	諸磯 a
10	X 126, Y 92 ドリッド	深鉢	③(5.0)	①黒・中粒②良好 ③鈍い褐色④胴部の一部	単筋 RL 縄文を施文。	諸磯 a
11	X 111, Y 111 ドリッド	深鉢	③(4.9)	①黒・中粒②良好 ③褐色④胴部の一部	楕円区画内に縄文 (RL) 施文。沈線の間はすり消し。	加曾利 E 4
12	D 区	深鉢	③(11.8)	①細粒②良好 ③淡黄褐色④胴部の一部	LR 縄文を施文方向を縦と横に変えて羽状構成をとる。隆線内はすり消し。	加曾利 E 4
13	D 区	瓶・磨り石	長さ: 11.7cm 幅: 4.3cm 厚さ: 3.0cm 重さ: 275g 石材: 安山岩		先端部破り痕。胴部磨り跡。	
14	全体-1	深鉢	③(7.0)	①細粒②良好 ③褐色④口~胴部の一部	平行沈線により区画し、区画内に縄文(LR)施文。太く短い対角文。直径1.2cmの円孔2ヶ。	加曾利 B 2
15	全体-2	深鉢	③(4.0)	①黒・中粒②良好 ③淡褐色④胴部の一部	条線文施文。	加曾利 E 4
16	全体-3	深鉢	②(7.2) ④(4.5)	①黒・粗粒②良好 ③褐色④底部の一部	底部平底から胴部へ外反。無文。	加曾利 E 4
17	全体-4	深鉢	③(6.6)	①黒・中粒②良好 ③鈍い褐色④口~胴部	単筋 RL 縄文を施文。	諸磯 a
18	全体-5	深鉢	③(4.5)	①黒・中粒②良好 ③鈍い褐色④胴部の一部	単筋 RL 縄文を施文。	諸磯 a
19	全体-6	深鉢	③(5.5)	①黒・粗粒②良好 ③鈍い褐色④口~胴部	沈線で楕円区画し、区画内縄文(LR)施文。肥厚する口縁に、こぶ状突起。	加曾利 E 4
20	全体-7	深鉢	③(5.3)	①黒・粗粒②良好 ③褐色④胴部の一部	隆線を境に無文と単筋 RL 縄文を施文	加曾利 E 4

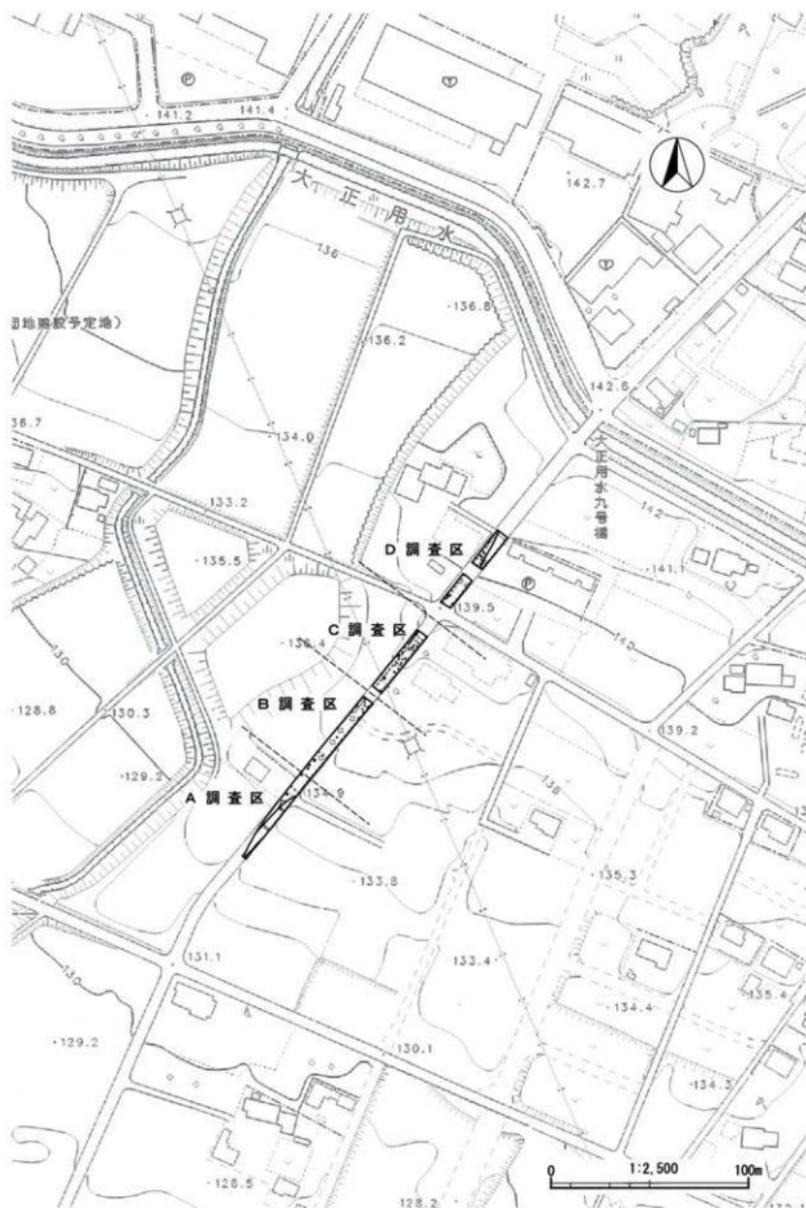
第6表 遺物観察表（古墳時代以降）

法量は①口径②底径③胴部最大④器高を表し、単位はcmである。また、( )は推定値、[ ]は現存値を表す。

番号	台帳番号	器種	法 量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備 考
21	H-1	須恵器 埴か	①(13.0) ④(3.2)	①細粒②良好 ③鈍い黄褐色④1/8	底部欠損。轆轤成・整形。口縁は外反する。	
22	H-1	土師器 坏	厚さ(0.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④底部破片	平底の一部分。轆轤成・整形。底部外面に墨書。	
23	H-1	土師器 台付壺	③(2.4)	①細粒②良好 ③褐色④胴部破片	欠損多く胴部と体部の接合部分。寛・無で整形。	

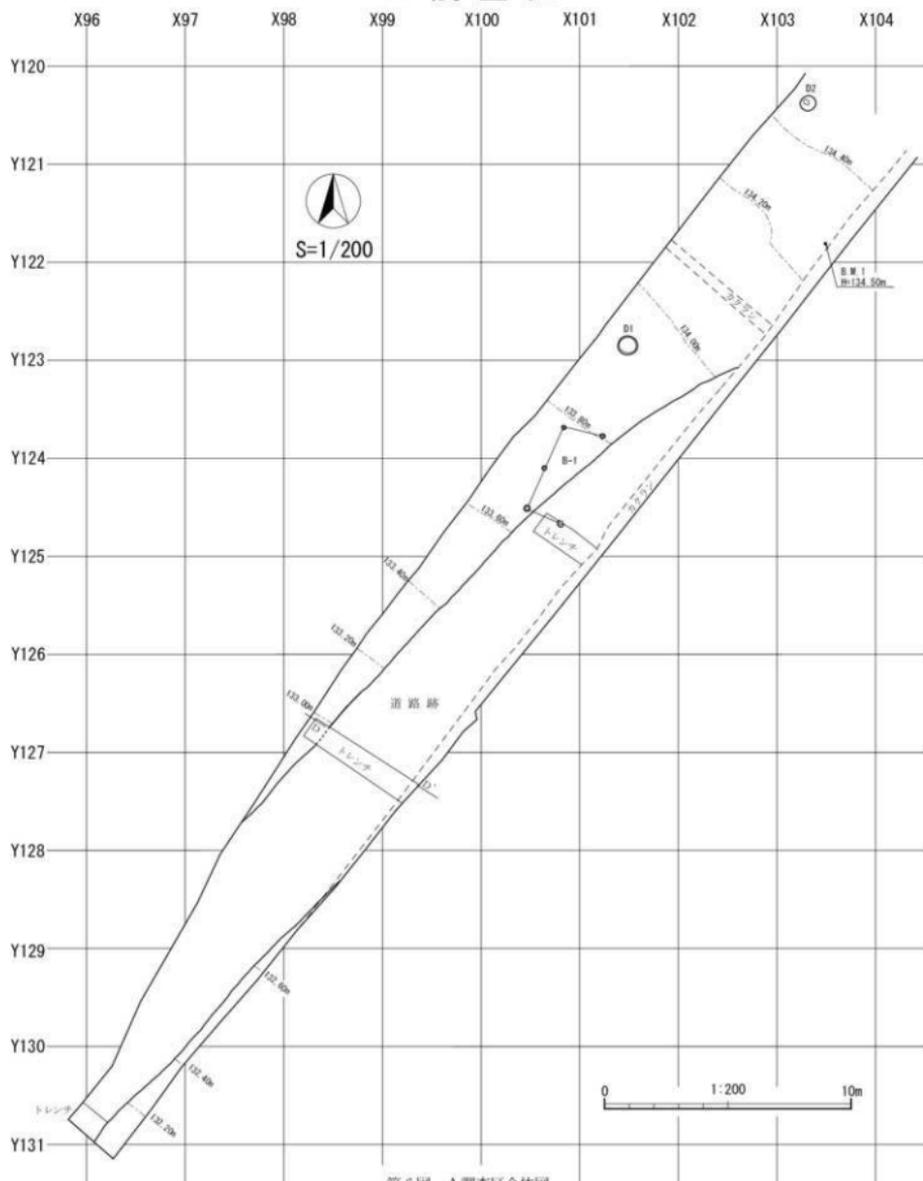
注) 遺物観察表の記載は以下の基準で行った。

1. 胎土は、細粒 (0.9mm以下)、中粒 (1.0~1.9mm以下)、粗粒 (2.0mm以上) とした。
2. 焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。
3. 色調は、土器外面で観察し、色名は「新飯塚標準土色帳」(小山正忠・竹原秀雄1999) による。



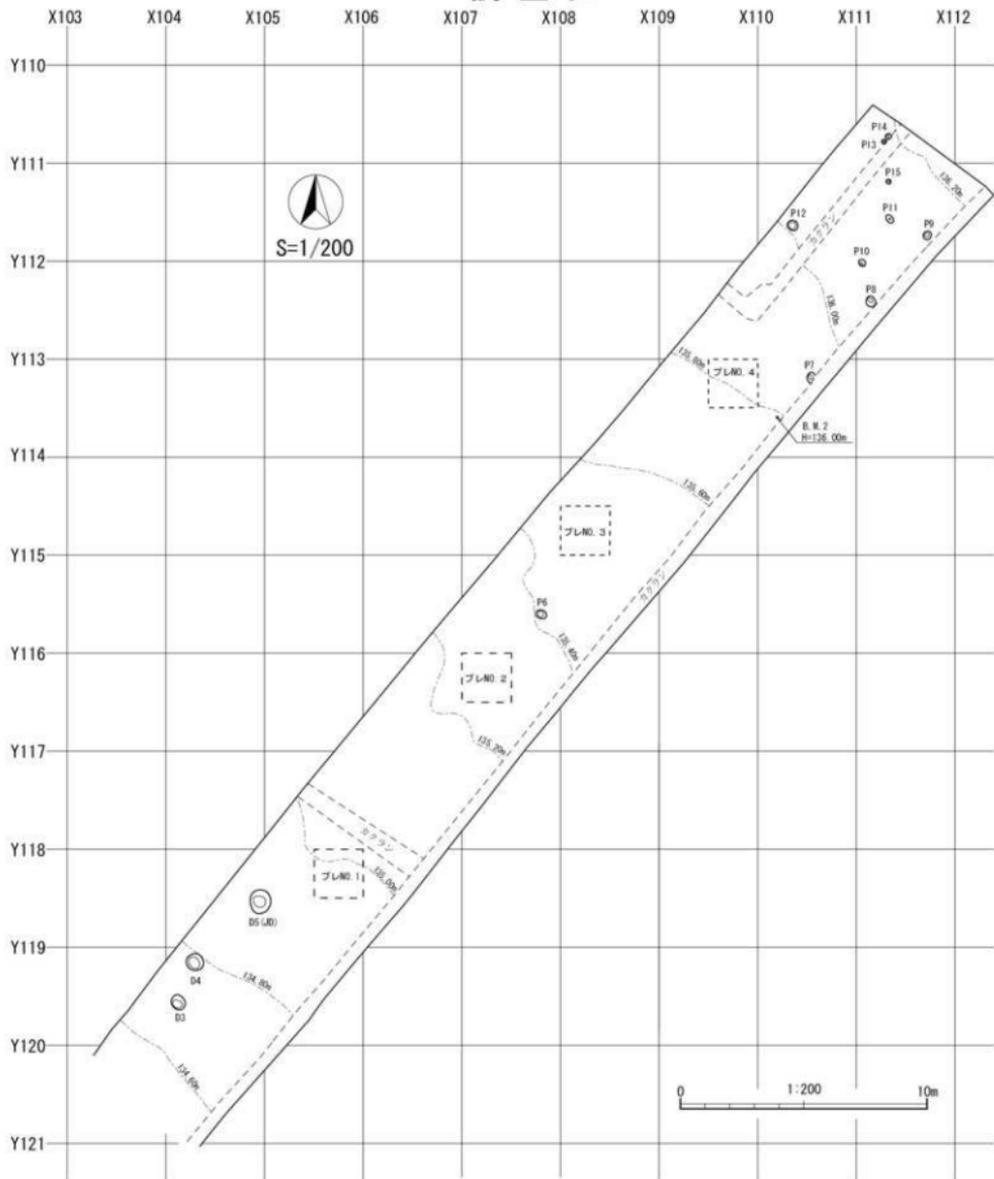
第5図 調査区位置図

# A 調査区



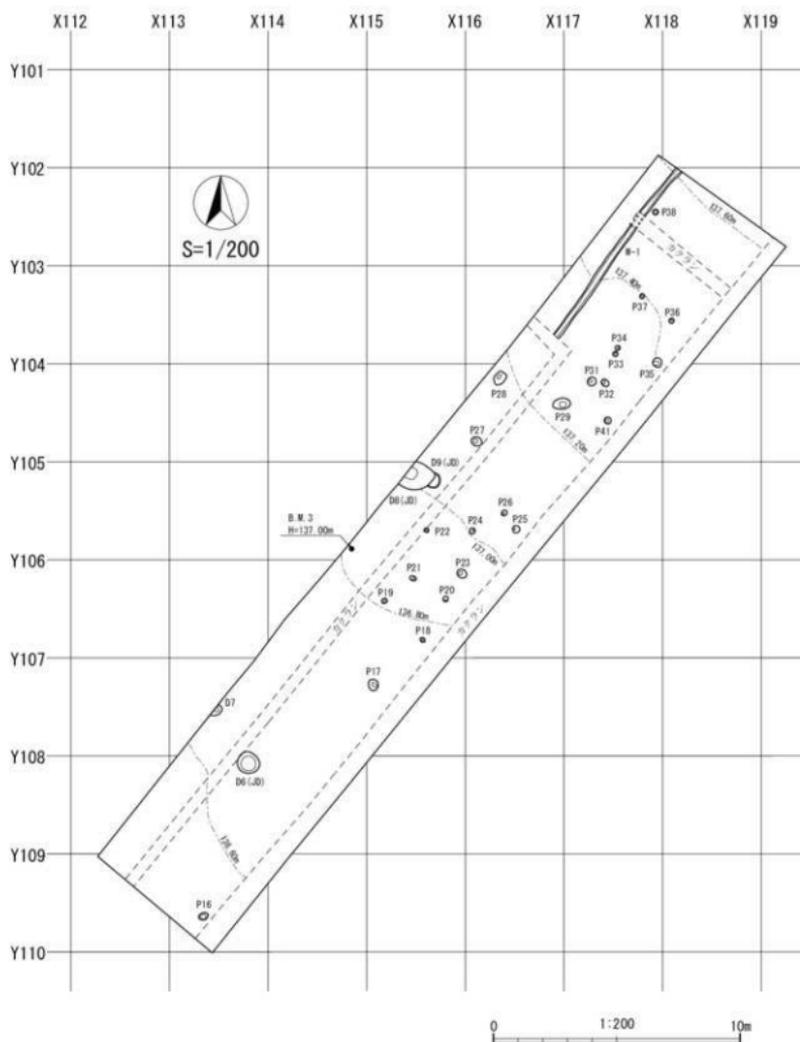
第 6 図 A 調査区全体図

# B 調査区



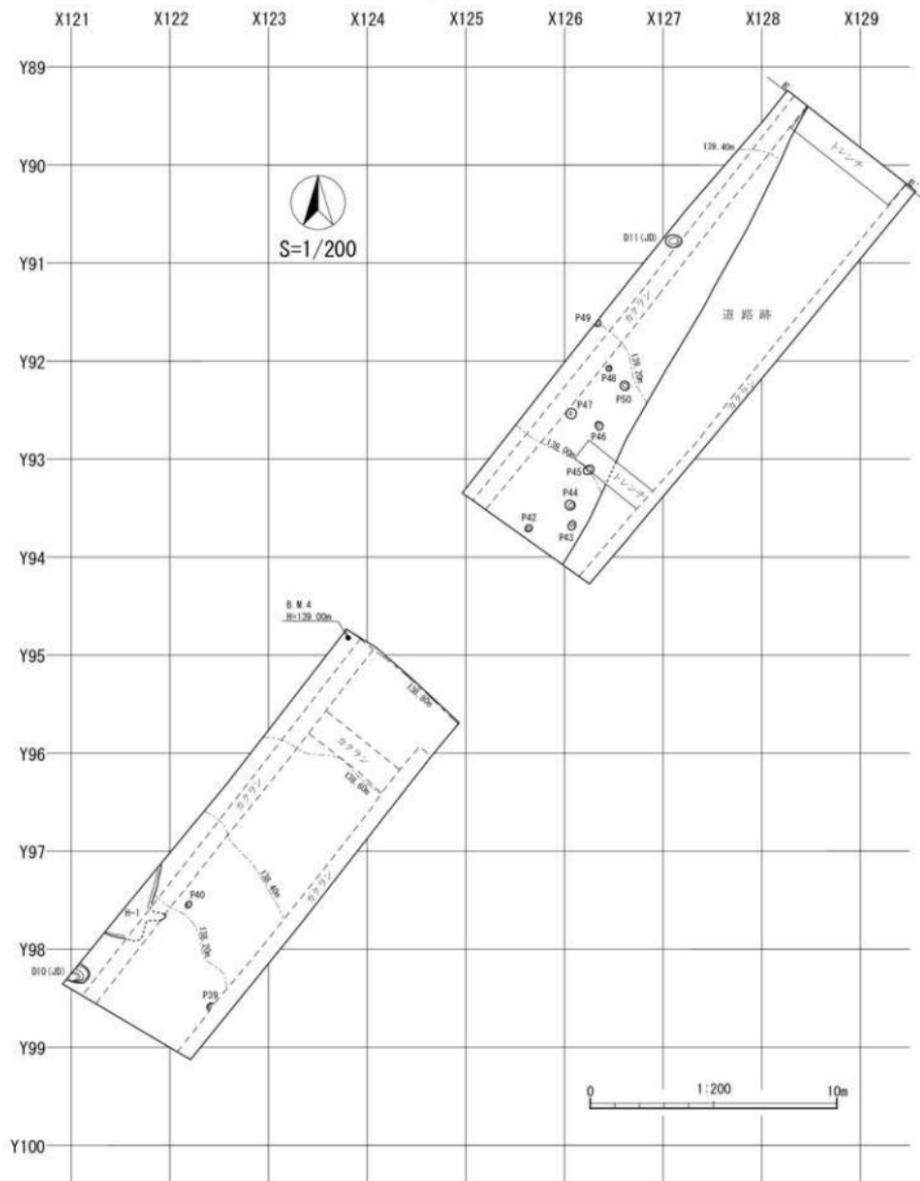
第7図 B調査区全体図

# C 調査区



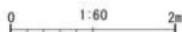
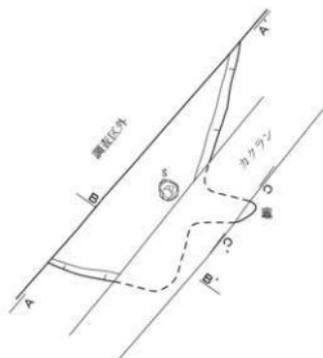
第 8 図 C 調査区全体図

# D 調査区

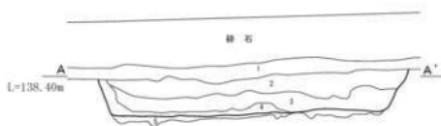
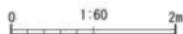
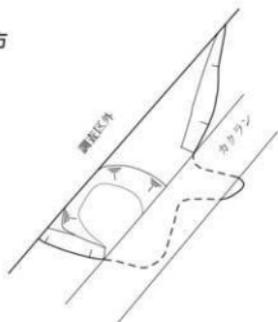


第9図 D調査区全体図

H-1



H-1 掘り方

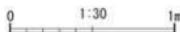


H-1 土層注記(A-A') (B-B')

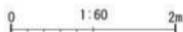
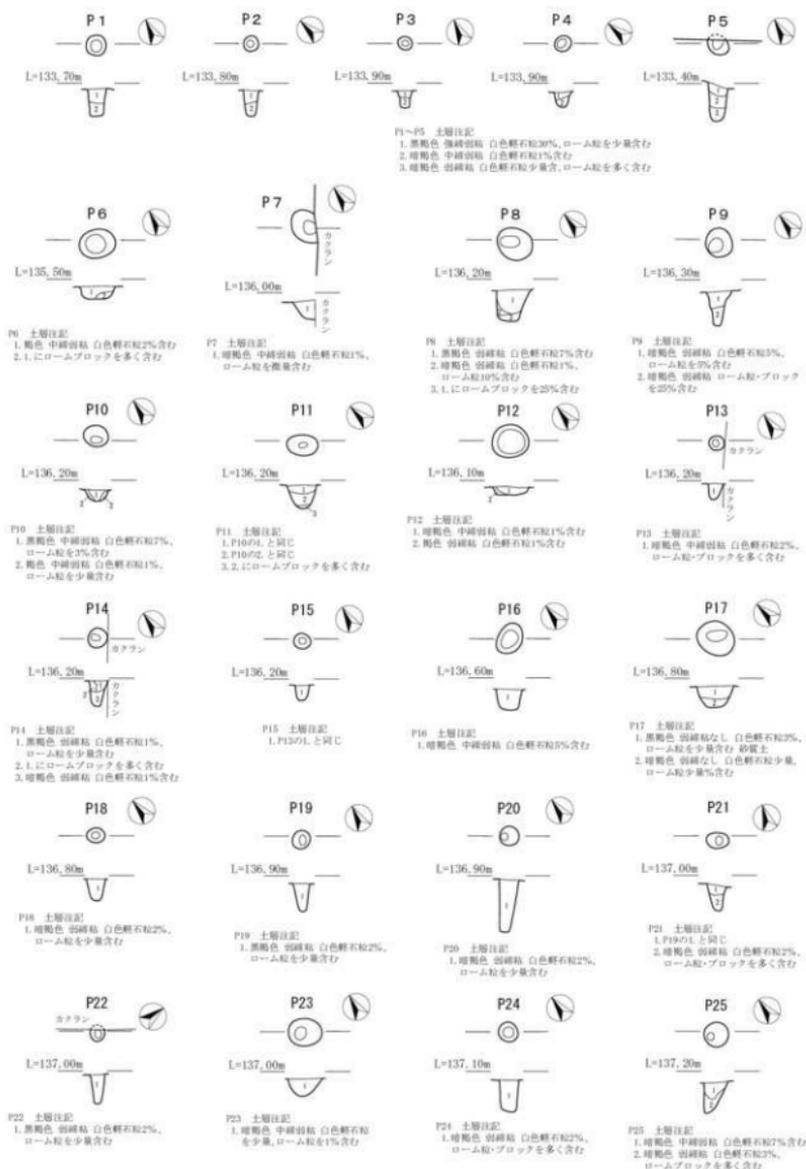
1. 黒褐色 弱結粒なし、白色軽石粒2%含む、砂質土
2. 黒褐色 弱結粒 白色軽石粒7%含む
3. 黒褐色 弱結粒 白色軽石粒3%、ローム粒を少量含む
4. 暗褐色 弱結粒 白色軽石粒1%、ローム粒・ブロックを2%含む
5. 暗褐色 弱結粒 白色軽石粒少量、ローム粒・ブロックを多く含む

H-1 溝 土層注記(C-C')

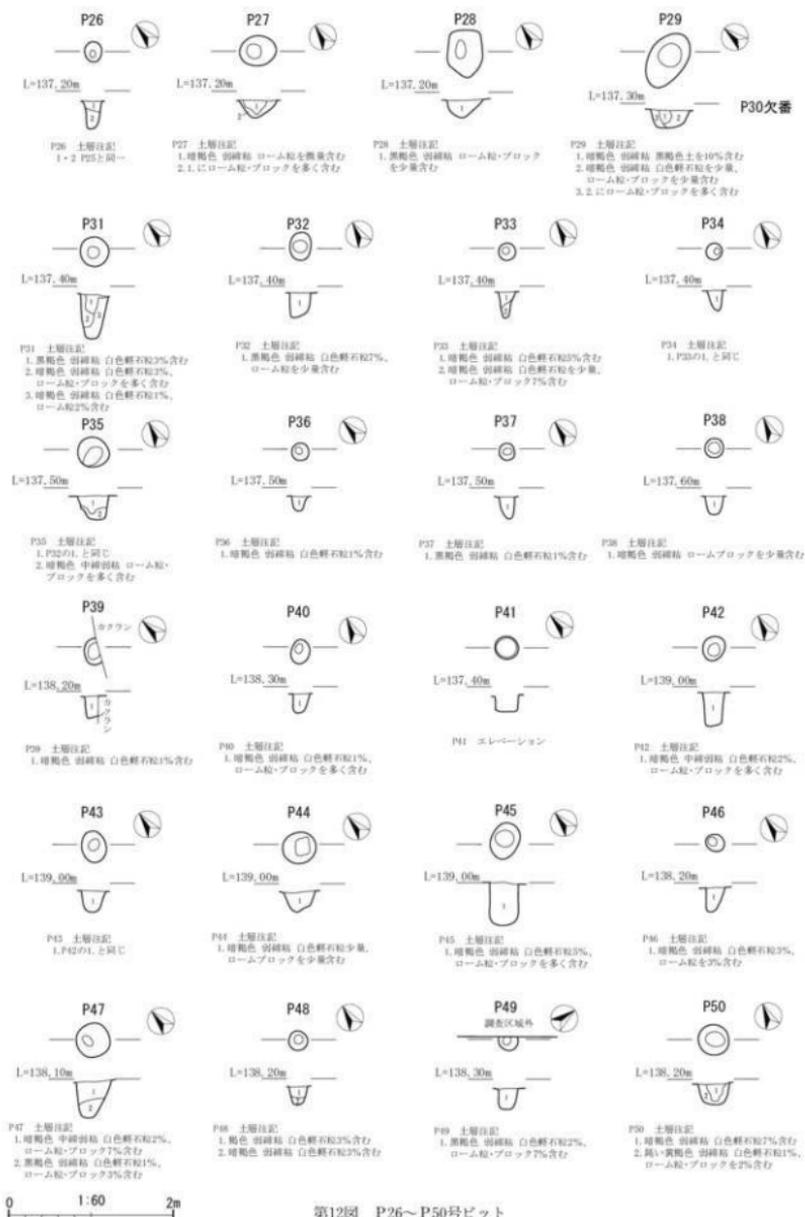
1. 褐色 中結粒 白色軽石粒2%、  
黄土粒3%、炭化物粒を少量含む
2. L.L.にロームブロックを多く含む



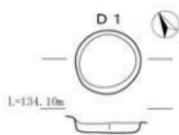
第10図 H-1号住居跡



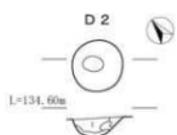
第11図 P1～P25号ピット



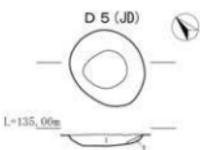
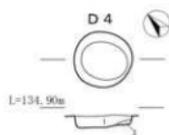
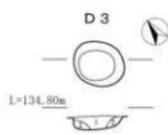
第12図 P26～P50号ピット



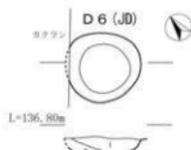
D1 土層注記  
1. 褐色 中硬固結 白色軽石粒2%。  
ロームブロック少量、炭化物を微量含む



D2~D4 土層注記  
1. 褐色 中硬固結 白色軽石粒3%、ローム粒1%含む  
2. 1.にロームブロックを7%含む  
3. 1.にロームブロックを10%含む



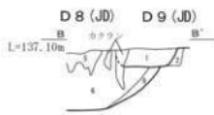
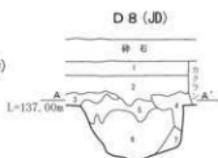
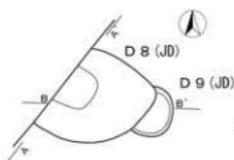
D5 (JD) 土層注記  
1. 増悪色 中硬固結 白色軽石粒2%、  
ローム粒を1%含む  
2. 1.にロームブロックを多く含む



D6 (JD) 土層注記  
1. 増悪色 中硬固結 黄い・黄褐色を  
露降り状に30%含む  
2. 増悪色 中硬固結 黄い・黄褐色を  
露降り状に40%含む

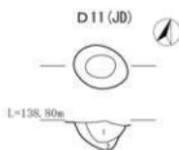


D7 土層注記  
1. 悪色 弱締結 白色軽石粒7%含む  
2. 増悪色 中硬固結 黄い・黄褐色を露降り状に30%、  
白色軽石粒微量含む  
3. 増悪色 中硬固結 黄い・黄褐色を露降り状に40%、  
白色軽石粒微量含む  
4. 埋山

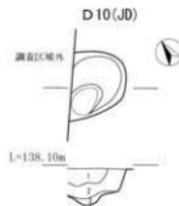


D8 (JD) 土層注記 (A-A')  
1. 増悪色 弱締結 白色軽石粒1%含む(ヒダ層多し)  
2. 悪色 弱締結 白色軽石粒1%含む(ヒダ層多し)  
3. 褐色 弱締結 白色軽石粒1%含む  
4. 黄褐色 弱締結 ローム粒を多く含む(風倒木痕)  
5. 褐色 硬なし岩粒 (樹の落ち葉)  
6. 増悪色 中硬固結 黄い・黄褐色を露降り状に40%、  
白色軽石粒1%含む  
7. 黄い・黄褐色 中硬固結 褐色を露降り状に30%、  
白色軽石粒2%、ロームブロックを少量含む  
8. 増悪色 中硬固結 黄い・黄褐色を露降り状に40%、  
白色軽石粒1%、ローム粒2%含む

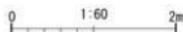
D9 (JD) 土層注記 (B-B')  
1. 悪色 弱締結 白色軽石粒を少量含む  
2. 褐色 中硬固結 白色軽石粒を1%含む(埋山)



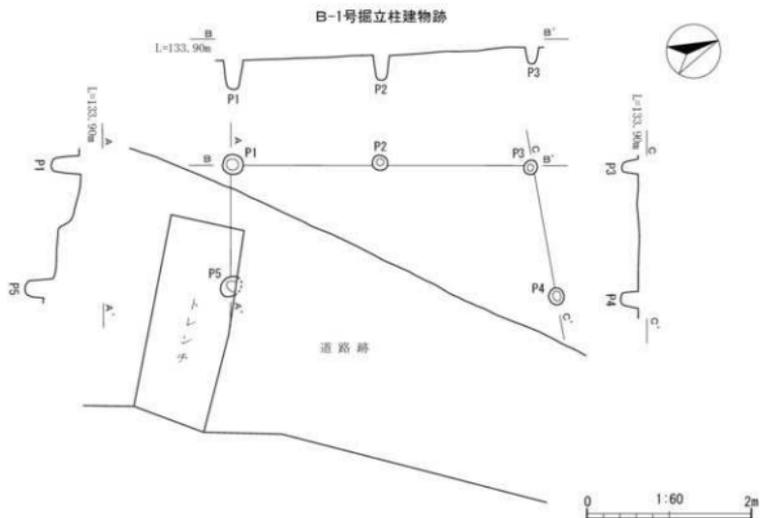
D11 (JD) 土層注記  
1. 悪色 中硬固結 白色軽石粒2%含む  
2. 増悪色 弱締結 ローム粒・ブロックを少量含む



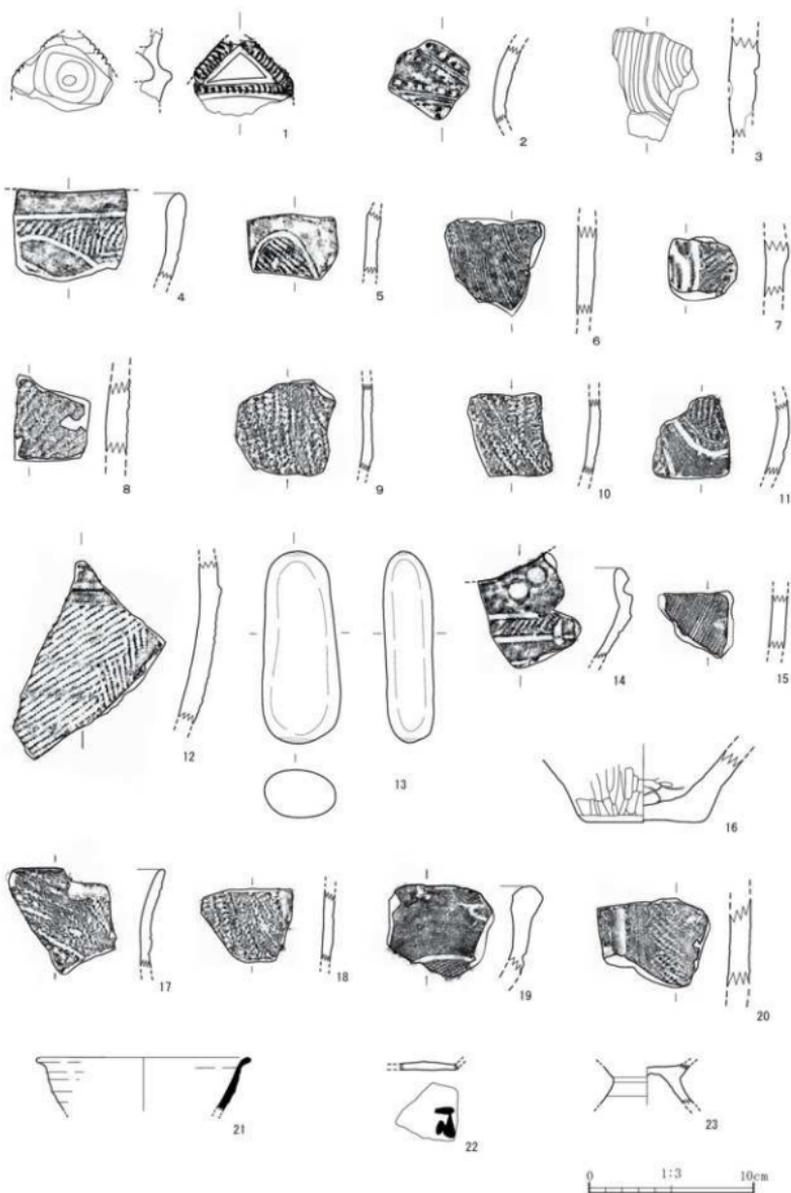
D10 (JD) 土層注記  
1. 悪色 弱締結 白色軽石粒1%、炭化物を微量含む  
2. 黄い・黄褐色 中硬固結 褐色を露降り状に30%、  
炭化物を微量含む  
3. 2.にロームブロックを多く含む



第13図 D1～D11 (JD) 号土坑



第14図 B-1号掘立柱建物跡、A・D調査区道路跡断面図



第15圖 遺物実測図



A・B調査区全景（上から）



C・D調査区全景（上から）



A調査区全景（南から）



A調査区全景（北から）



B調査区全景（南から）



B調査区北端（南から）



C調査区全景（南から）



C調査区全景（北から）

図版 2



D調査区南側全景 (南から)



D調査区北側全景 (南から)



D調査区北側全景 (北から)



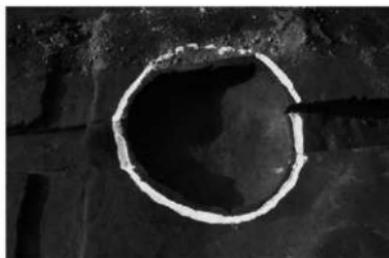
H-1号住居跡全景 (南から)



B-1号掘立柱建物跡全景 (南から)



H-1号住居跡掘り方全景 (南から)



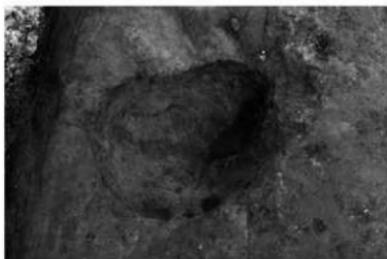
D 6 (JD) 号土坑全景 (東から)



D 8・9 (JD) 号土坑全景 (西から)



D10(JD)号土坑全景(東から)



D11(JD)号土坑全景(南から)



作業風景



ブレ調査NO.1土層断面



ブレ調査NO.3土層断面



ブレ調査NO.4土層断面

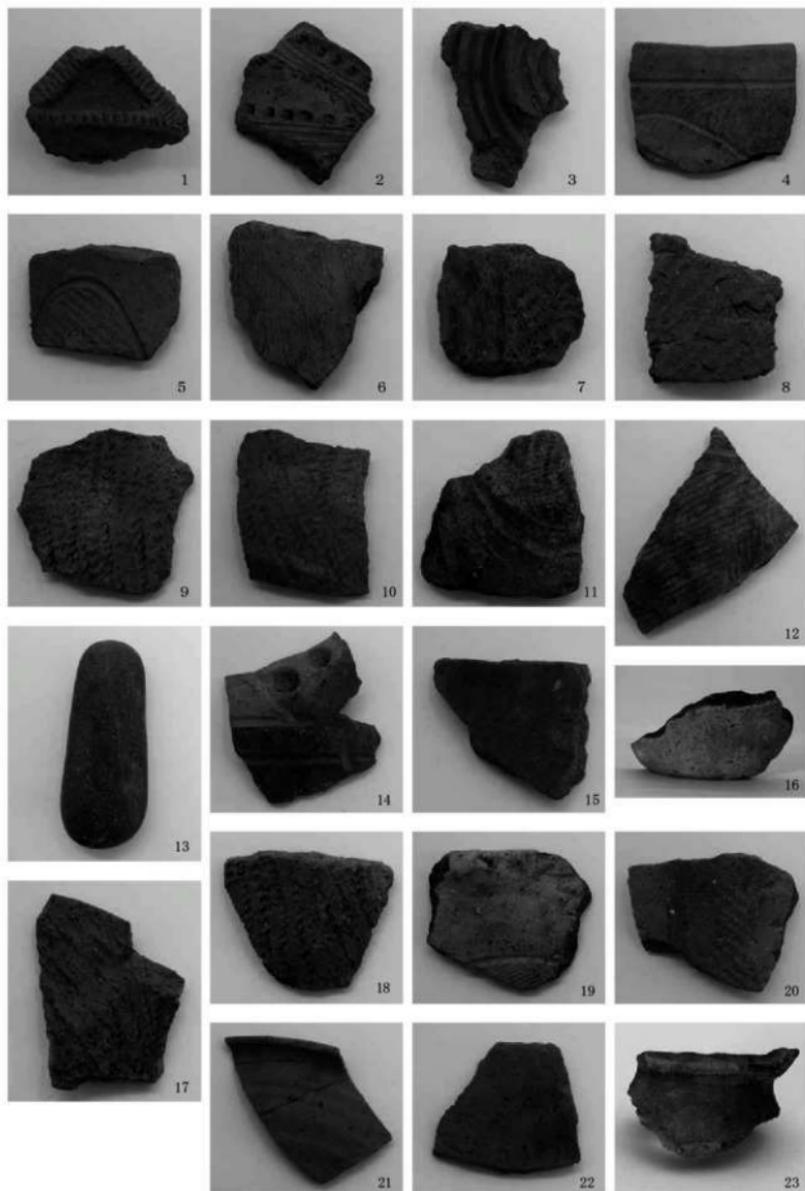


道路跡土層断面(A調査区)



道路跡土層断面(C調査区)

图版 4



## 抄 録

フリガナ	ゴダイ ナンプ コウギョウダンチ イセキグン ゴダイ イセミヤ イセキ ニ
書 名	五代南部工業団地遺跡群 五代伊勢宮遺跡(2)
副 書 名	市道00-042号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	山下歳信・岩丸展久(前橋市埋蔵文化財発掘調査団) 榎田友寿(スナガ環境測設株式会社)
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2009年2月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 経			
ゴダイ ナンプ コウギョウダンチ 五代南部工業団地 遺跡群 ゴダイ イセミヤ イセキ ニ 五代伊勢宮遺跡(2)	マエハシ シゴダイ 前橋市五代町 1075-1番地	10201	20C46	36°24'37"	139°07'01"	20080918 ) 20090227	1,350㎡	道路改良工事

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五代伊勢宮遺跡(2)	集落跡	縄文時代 平安時代 時期不明  近 代	土坑 6基 竪穴住居跡 1軒 掘立柱建物跡 1棟 土坑 5基 溝跡 1条 道路跡 1条	縄文土器 土師・須恵器	

## 五代伊勢宮遺跡(2)

2009年2月23日 印刷  
2009年2月27日 発行

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三俣町二丁目10-2  
TEL 027-231-9531

編 集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地-1

印 刷 朝日印刷工業株式会社



# 五代南部工業団地遺跡群全体図

年度	遺跡名	遺跡略称	面積 (㎡)	報告書名
H12	江戸屋敷	I2C21	12,000	五代江戸屋敷遺跡
H12	竹花	I2C22	4,800	五代竹花遺跡
H12	木福Ⅰ	I2C23	11,785	木福Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅰ遺跡 合併
H12	伊勢宮Ⅰ	I2C26	3,800	五代伊勢宮Ⅰ遺跡
H12	木福Ⅱ	I2C24	26,400	五代木福Ⅱ遺跡
H12	深堀Ⅰ	I2C25	1,000	五代深堀Ⅰ遺跡 合併
H13	伊勢宮Ⅱ	I3C27	6,800	五代伊勢宮Ⅱ遺跡
H13	伊勢宮Ⅲ	I3C28	1,200	五代伊勢宮Ⅲ遺跡
H13	深堀Ⅱ	I3C29	266	五代伊勢宮Ⅲ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡・五代中瀬Ⅰ遺跡・五代伊勢宮Ⅳ遺跡 合併
H13	中瀬Ⅰ	I3C30	8,140	五代伊勢宮Ⅳ遺跡 合併
H13	伊勢宮Ⅳ	I3C31	2,400	五代伊勢宮Ⅳ遺跡
H14	伊勢宮Ⅴ	I4C32	7,844	五代伊勢宮Ⅴ遺跡
H14	伊勢宮Ⅵ	I4C33	9,000	五代伊勢宮Ⅵ遺跡
H14	中瀬Ⅱ	I4C30	6,000	五代中瀬Ⅱ遺跡 合併
H15	中瀬Ⅲ	I5C30	2,482	五代中瀬Ⅲ遺跡
H15	山形Ⅰ	I5C34	5,198	五代山形Ⅰ遺跡・五代山形Ⅱ遺跡 合併
H15	山形Ⅱ	I5C35	1,000	五代山形Ⅱ遺跡
H15	竹花Ⅱ	I5C22	6,411	五代竹花Ⅱ・五代木福Ⅲ遺跡 合併
H15	木福Ⅲ	I5C23	6,024	五代木福Ⅲ遺跡 合併
H16	木福Ⅳ	I6C23	3,025	五代木福Ⅳ遺跡・五代深堀Ⅱ遺跡 合併
H16	深堀Ⅲ	I6C25	3,024	五代深堀Ⅲ遺跡 合併
H18	伊勢宮Ⅶ	I8C37	3,800	五代伊勢宮Ⅶ遺跡(1)
H20	伊勢宮Ⅷ	I20C46	1,386	五代伊勢宮Ⅶ遺跡(2)
総面積				184,276



記号	遺跡
J	縄文時代の住居跡
H	古墳群(古墳・平家時代の住居跡)
B	築地住居跡
C	方格敷基
W	溝跡
D	土坑(縄文土坑・古墳の副葬品等)
A	地下式構築いはい遺跡
P	井戸跡
I	伊勢宮
X	深堀跡
T	竹花跡
O	木福跡

地形図は平成10年度『前橋市現形図修正業務』(日本測地系、地図情報レベル2500)の28、29、36、37を使用。